

なかつか 亮

車の排気ガス
騒音で住環境は?

補助26号線問題

東京都が説明会を開催

自動車交通量 1万台に不安の声

(※1万台…現在の大井町駅前とほぼ同規模)

2月6日、東京都は荏原第五地域センターにて補助26号線道路事業の工事説明会を開催。参加者からは「交通量はどのぐらいなのか」「騒音や排気ガスの環境影響は」など多数の不安の声が上がりました。

60名が参加

当日の工事説明会には近隣の方や荏原3中、大間窪小の保護者ら60名が集まりました。

東京都によるスライドを使った概要説明後、質疑応答が行なわれ、会場からは工事期間中の車両の出入りや、道路完成後の住環境への影響など、次々と意見が出されました。

補助29号線って何?

補助29号線とは、東京都が進める道路整備事業(都市計画道路補助第26号線整備事業)のこと。全長は品川区東大井一丁目から板橋区氷川町に至る22.3km。二葉一丁目から豊町三丁目の665m区間は約8割の用地買収が進み、今回の工事説明は、主に二葉

1丁目のタコ公園の前から大間窪小学校の脇付近にです。(左写真参考)



「交通量はどのぐらい？」 「学校や住環境にあたる影響は？」

不安の声

不安の声「多数」

会場で出された意見をいくつか紹介します。
(二部省略)

学校保護者

「この近所は小学校や中学校、幼稚園など子どもが多い地域なので、十分な配慮をしてほしい。大間窪小の校庭では野球の練習もあるので安全対策を取ってほしいと思います」

説明会の様子です



マンション住民

「道路が完成するのはいつになるのか。工事中は一方通行を逆そうするようになるが、どうなるのか。移転後の公園ベンチは工夫してほしい」

近隣の方

「道路建設で考えられる周辺への影響は騒音と振動では。予測やシミュレーションではどのぐらいの交通量なのか」

東京都の回答

(会場では一問一答でしたが、一部省略し紹介します)

「工事車両は8時半以降とし、歩道は1、5m確保します。道路の完成時期は延期もありえる。マシオン前の一方通行は工事期間中は解除するよう警察と調整。公園ベンチは工夫します。交通量

は一万台程度だと思いません。環境予測(環境アセスメント)はしません。振動は70デシベルより低くします」

環境調査の実施を

交通量について都は、現在の大井町イトーヨーカ堂前の交通量が9900台と合わせて説明。これを聞いた参加者は「静から住宅街に一万台とは。これでは、大井町駅前交差点の目の前で、毎日暮らしていることと同じ。息苦しい」と語ります。

都の説明に対して「環境調査を実施してほしい。なぜ、出来ないのか」と参加者から繰り返し要望。都は「都の基準では4車線道路はアセス(環境調査)を実施するが、今回

の道路は2車線(幅20m)なので行ないません」の一点張りでした。

その他「蓋を閉めれば騒音が防げるのではないか」「汚染物質を除去できる脱硝装置をつけてほしい」なども出されましたが、都は「予算の関係もある」と住民の要望を拒否しました。

私は、東京都は環境調査を行い、道路建設に伴う車の排気ガスや騒音が学校や周辺の住環境に与える影響を調査、周辺住民に報告すべきだと思います。そして、十分な対策を講じるべきだと思います。住民の意見に耳を傾けず「そこだけそこの道路が通る」では困ります。なかつか亮

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

次回の日程は、決まり次第お知らせいたします。住宅相談や保育園入園相談など、生活相談などございましたら、お気軽にご連絡下さい。

区議控室 Tel 5742-6818

なかつか亮